

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	基礎学力講座・国語(Basic Aptitude Course: Japanese)	授業コード	A031611
担当教員名	安田幸夫・太田 清子		
配当学年	1	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	これは選択科目ですが、選択必修科目の一つとして考えてください。		
受講心得	小型の国語辞典または電子辞書を毎回持参することをすすめます。ノートも用意したほうがよいでしょう。授業中に教科書の練習問題を解いてもらいますので、教科書を持参するのを忘れないこと。		
教科書	①日本語検定委員会(編)『ステップアップ日本語講座 中級』(東京書籍) ②川本信幹(のぶよし)(監修)『日本語検定公式練習問題集 4級』(東京書籍)		
参考文献及び指定図書	『三省堂国語辞典 第六版』(三省堂)、江守賢治『漢字筆順ハンドブック 第三版』(三省堂)、朝日新聞出版(編)『日本語さほん帳』(朝日文庫)、朝日新聞出版(編)『らくらくマスター 日本語常識ドリル300問 漢字編』(朝日文庫)。		
関連科目	社会参画入門、社会参画実習1、文章表現基礎講座、英語1・2、情報リテラシー1・2		

授業の目的	1年次の「基礎学力講座・国語」は大学での勉学に必要な最低限の国語力の養成を図ることを目的としますが、大学入学時点で国語力が必ずしも十分ではない学生は一般の国語クラスで受講すると授業内容が消化不良になる恐れがあるため、別途開設される”導入クラス”で初歩的・基本的な国語の学習を行い、後期の「文章表現基礎講座」(必修)の受講に備えます。
授業の概要	第2週はこの科目のオリエンテーション。半年間の授業で教科書①の前半を取り扱います。(後半は後期の「文章表現基礎講座」で取り扱います。)第3回から第15回まで教科書の「敬語」の部分を読んでいきます。毎回練習問題があります。第6週に学修状況の中間確認を行い、学力不足と判断された学生には学期の後半に補講を受けてもらいます。また、担当教員の判断で、教科書①とは別に、6月の日本語検定4級受験のために教科書②に取り組みます。第10週の授業日は日本語検定(4級)の実施日ですが、検定時間は授業時間と重なりません。第16週に第3週から第15週までの授業内容についての期末試験を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週: 半年間の学習に関するオリエンテーション。授業の進め方、出欠の取り方、遅刻・早退の取り扱い、試験の行い方、授業中の発表の取り扱い、質問の受け付け方法、成績評価の方法等について説明します。	第2回～第5回 授業に出る前に教科書の該当箇所をよく読み、練習問題をといてみる。必要に応じて辞書(国語辞典等)を引くこと。
第2週: 熟語の構成 形の似た漢字	
第3週: 同音異義語 同音異字・同訓異字	
第4週: 四字熟語とその適切な使い方	
第5週: 用言の活用と接続	
第6週: 可能動詞・受身と使役	
第7週: 文のねじれ	

第8週： 接続語		
第9週： 助動詞		
第10週： 助詞 言葉と言葉の関係		
第11週： 類義語 対義語		
第12週： 多義語 言葉の使い方		
第13週： 慣用句		
第14週： 漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り		
第15週： 総合問題		第15回 授業終了後、第16回の期末試験に備えて半年間で学んだ授業内容を再度振り返り、必要なまとめや補充を行い、疑問点については自分で辞書や参考書を使って調べておくこと。教員への質問も積極的に視野に入れること。
第16週：期末試験 期末試験。第2回～第5回までの授業内容についての試験を行います。		第16回 試験終了後、試験内容を再度検討し、答えられなかった箇所については担当教員への質問等によって正解が得られるまで努力する。
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考	このシラバスは「日本人・導入クラス」用です。「日本人・一般クラス」および「外国人留学生クラス」の授業内容はこれとは異なります。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	日常生活の中でよく使う言葉について意識を高めるとともに、さまざまな分野の文章に関心をもつこと。
【知識・理解】	日本語の意味や用法に関する基礎知識を身につけること。
【技能・表現・コミュニケーション】	日本語検定を受検し、本科目の分野について、合格する水準に達すること。
【思考・判断・創造】	日本語の文法にそう自然な言い回しを理解し、文意が正確に把握できること。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	15点	
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	50点	15点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	5点			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	5点			
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	提出された課題を評価します。
発表・その他 (無形成果)	授業への出席1回あたり1点を与えます。遅刻・早退はその半分です。